

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 21年 11月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに重点をおき、利用者の希望に沿った介護ができるように心掛けています。また最近では全体のADLが低下してきているため、外出行事など減少しているが、グループホームで飯ごう炊飯をしたりなど、利用者が懐かしいと思っていただけるようなグループホーム内のできる行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の山間に建つ総合福祉施設の一画にあるホームである。山々、池や畑、遠くの町並みが見渡せる自然環境の中で、利用者はゆったりと落ち着いた生活を送っている。職員は一人ひとりの個性を大切にしたい暖かい支援に努めている。法人全体として地域に根ざした活動・支援をすすめており、地域との繋がりが構築されている。利用者の機能低下等もあり、ホーム外の活動よりホーム内での生活が中心となっており、職員はホーム内での生活のあり方を模索し、生活の質を上げたいと検討を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含まれます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含まれます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含まれます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏名 野本 浩二

評価完了日 平成21年 11月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 「利用者と共に笑い、家族と共に歩み、地域と共に支え合う」という理念を職員で意識し、共有できるよう心掛けている。</p> <p>(外部評価) 全職員で意見を出し合って作られたわかりやすい理念は、目に触れやすい場所に掲示して時々共有し、日々実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事には積極的に参加させてもらっている。また月に一度地元のサロンに参加できる使用者で参加されている。</p> <p>(外部評価) 「地域と共に支えあう」という理念は法人全体の職員に馴染んでおり、地域行事への参加はもちろん、近くの自衛隊の餅つき、子どもたちのお菓子作りや季節の催し物開催等、多岐に渡る交流ができています。また、近所の方が野菜や果物を届けてくれたり、散歩時には挨拶を交わすなど、馴染みの関係ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 地元の中学生や小学生、また地域の認知症サポーターの方々へのグループホーム体験などを受け入れ、実際に認知症についての理解を深めていただいている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 行政の方や包括支援センターの職員を交えて、家族の 悩みなどを基に話し合っている。また行事報告なども 行い、今後のサービス向上を目指している。	
			(外部評価) 地域の住民や利用者の家族等にも、より多く参加して もらえるよう、行事や家族会と合同で開催するなど、 開催日・時間や運営の工夫を続けている。また、市内 他ホームとの間で、管理者が会議に参加し合うなどし ながら、より有効な会議運営について相互に検討し 合っている。会議での意見は職員で共有し、サービ スの向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行事などにお誘いするなどして、現場の状況を見てい ただく機会が以前より増えた。今後も交流を図ってい きたい。	
			(外部評価) 運営推進会議の際にできるだけ現場を見てもらって意 見交換している。必要時には助言や協力を得たり、情 報提供するよう相互に取り組んでいる。また、月1回 は介護相談員の訪問もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束についてはカンファレンスでもよく話合っ ている。新人職員など、具体的な身体拘束を完全に理解 できていないところもあるので、今後も勉強会などで 身体拘束について職員全員で理解していきたい。	
			(外部評価) 職員は、研修・勉強会等で学ぶ機会を持ち、カンファ レンスでも議題に上げており、十分理解している。現 在、家族の希望で安全確保のために夜間ベッド柵を使 用している利用者があるが、家族の承諾書を得たうえ で状態把握や記録を常に行っている。玄関は、夜間以 外施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者の身体観察をおこない、注意を払っている。職員が自覚をもち、しない、させない、見過ごさない態度で臨んでいる。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 管理者や計画作成担当者については、権利擁護に関する勉強会などに参加する機会があるが、一般職員については勉強会に参加する機会がほとんどない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際に契約の説明を十分に家族に行い、家族もそれで理解・納得をされている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 個人的に要望等を訴えられるご家族もおられる。また運営推進会議で要望等をお聞きすると、訴えられる方もおられ、出来る限りその要望等に答えられるようにしている。  (外部評価) 契約時にホーム内及び外部の苦情相談窓口について説明し、家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族会や運営推進会議でも、意見が出しやすい進行に心がけている。意見や要望は職員間で共有し、運営に反映させている。また、意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	(自己評価) 毎月1度開催している職員会議で、それぞれ職員の見 意見を取り入れ運営に反映させている。  (外部評価) 法人の施設長との年1回以上の面談の際に、意見や希 望について話している。月1回、定期的に職員会を開 催して活発な意見交換を行い、出された意見等を運営 に反映させている。管理者は会議や面談での提案につ いて具体的に対応している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	(自己評価) 今年度より、給与の見直しと職員一人一人の身分保障 を検討し、職場環境や条件を整備している。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	(自己評価) 毎月最低1人は研修に行けるようにしている。また職員 会議で毎月研修報告を職員全員に行い、全員で情報等 を共有し、スキルアップに繋げている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修などを通じて知り合った同業者と交流の計画など は立てるが、なかなかそれぞれの事業所の時間などが 合わず、実現していない。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	(自己評価) 新しく入居された方については、こまめにカンファレ ンスを行いより多くの情報を得ることで、本人が安心 して暮らしていけるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に家族と面接をし、よく話し合いをし、家族が困っていることや不安を聞き、信頼関係を築いていけるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 入居の段階の話し合いで、まず必要としていることを聞き取りしているので、それについてカンファレンスを開き今後の支援を検討している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) グループホームの生活において出来る事はなるべくしていただいたり、職員と一緒にしていただいたりして生活感を大切にしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事の時は必ず連絡して参加を促がしているが、少数しか参加されず、今後も家族がもっと参加してくれるような努力が必要。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地元の行事に参加することで馴染みの友達と会う方もおられる。また馴染みの散髪屋に行ったりしてなるべくご本人の馴染みを崩さないようにしている。  (外部評価) 職員は日々の生活の中で利用者個々の情報を把握し、個別の対応を心がけている。地域行事に参加したり、馴染みの友人と会ったり、行きつけの美容院や墓参り、希望の買い物や外食に行くなど、個別支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係をよく把握し、少人数の外出など仲の良い利用者同士で行動できるよう努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後もこれまで通りの関係を保ちたいが、なかなかお会いする機会などがなく実現できていない。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) ご本人の意見を聞き、出来ることは優先して支援できるよう努めている。また困難なこともそれに変わる事などを検討して実行している。	
			(外部評価) 利用者に聞いたり、家族から情報を得るなどして思いや意向を把握し、具体的な支援に繋げている。身体機能等の低下から次第に外出が難しくなっており、ホーム内での生活を充実させるよう工夫している。家事、畑の水やり等、個々に役割をもってもらうように努めている。また、戦争の話から飯ごう炊飯や手打ちうどん作り等につながるなど、生活の中での楽しみのレパートリーを増やしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人や家族に昔の生活ぶりなどを聞き把握している。また昔の写真なども持ってこられている方もおられるので、それも利用させてもらっている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の生活の観察により、現状を把握している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 職員会議にて職員からは良いアイデアがでてそれが計画に活かしているが、家族からの要求は特になく、家族に対しては報告するのが現状となっている。  (外部評価) 職員は担当制で、利用者や家族の希望等も確認したうえで、把握した情報等を介護計画作成に活かしている。計画はケアカンファレンスで意見を出し合い、3か月ごとに見直している。また、変化のある時は必要に応じて見直している。ホームでの生活の様子は家族にも伝え、同じ意識を持ってもらうよう働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の記録や業務連絡のノートを使いながら職員全員が情報を共有し、それを日々の介護に活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 今現在の利用者の状態に応じて行事や普段の生活にあったケアを考え、実行に移している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 地域の行事や学校、幼稚園との交流で利用者がそれを楽しみにし、それを生きがいに行っている。また交流によって地域住民が利用者の顔などを覚えてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月に2回の主治医の往診により良い関係を築けている。 また本人と家族の意見を大切にしている。</p> <p>(外部評価) 月2回、協力医療機関からの往診があり、法人内の看 護師が対応して、連携がスムーズに行えるよう配慮し ている。利用者の希望するかかりつけ医への受診を継 続することも可能であり、その際は家族の協力を得て いる。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 24時間体制で看護師と連携を図るようにしている。看 護師にも職員会議に参加していただき介護職員と同じ に情報を共有してもらっている。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 事業所、家族、病院でよく話し合い、できるだけ利用 者や家族の意向にそった形で入退院ができるよう普段 から情報交換を行っている。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 入居の契約の際にまず、重度化や終末期においての家 族と本人の意向を確認するようにしている。ただ、地 域の方とは重度化や終末期について、運営推進会議に おいての説明くらいしか行っていない。</p> <p>(外部評価) 開設から現在までに5名の看取りを経験したが、ここ 3年は経験していないため、看取りを経験した職員が 少なくなっており、課題となっている。具体的な支援 内容・介護の方法・医療機関との連携体制等につい てのマニュアルを作成しているが、実践に備えて再確認 が必要である。</p>	<p>現在いる職員の多くは看取りを経験していないため、 マニュアルの見直しと、具体的な研修の継続を期待し たい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的ではないが時々職員の勉強会や看護師からの説明で急変時について学ぶ機会は設けている。また消防の救命救急の訓練を1人1回必ず受けるようにしている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 施設全体で年に2回消防署の方と防災訓練を行っている。また定期的に地域住民の方々も参加され、協力体制を築いている。  (外部評価) 法人全体として、消防署や地域住民の参加協力を得ての防災訓練を年2回実施している。定期的な消防設備の点検や非常用食料の備蓄等も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりを尊重した声掛けを常に意識して日々対応している。  (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりを尊重した言動に十分配慮している。排泄や入浴の支援、居室への出入りの対応等は特に意識して気をつけている。個人情報取り扱いにも配慮し、必要時には家族と相談している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者それぞれに個別ケアの時間を書いたスケジュール表をお渡しし、それを見ながら行きたい所ややりたい事などを言うていただけるよう働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) なるべく利用者の希望がにそっている。夜間外出の希望なども職員の勤務時間外で対応している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者によって個人差はあるが、おしゃれが好きな方はいっしょに化粧品を買いに行かれたり、こだわりの美容院や理髪店に行かれています。またおしゃれの訴えがない方は職員がその人に合った身だしなみを支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 準備や後片付けを一緒に行っている。また利用者それぞれが役割を持たれている。  (外部評価) 利用者の好みを考慮しながら職員が献立をたて、栄養士が確認している。できる範囲で準備や片付け等の役割を持ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。機能や状態に応じて、細かく切ったり、柔らかくしたり、トロミを付けたり、握り飯にするなど、個々の状態に合った支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 利用者によっては毎日の水分摂取量を確認できるよう摂取表を作るなどしてそれぞれの状態に応じた支援を行っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) ご本人でできる方はご自分でされているが、できない方は職員が口腔ケアをしている。また定期的に利用者全員の口腔の状態を歯科医師に診てもらっている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) なるべくオムツの使用は避けるよう心がけている。また排泄チェック表などを活用してそれぞれの排泄のパターンを把握し自立できるよう支援している。	
			(外部評価) できるだけオムツを使用をしないでトイレで排泄できるよう、自立にむけた支援に努めている。個々の排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。現在、オムツを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 便秘について利用者それぞれのカンファレンスで話し合い、看護師の意見などを基にその方に一番適した予防法を見つけ出している。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者同士で話合って入浴の順番を決められ、利用者同士で声掛けし合っている。そこでトラブルが生じた時などは職員が仲介に入っている。	
			(外部評価) 利用者同士で順番を決めて声をかけ合っており、スムーズにいかない時だけ職員が関わっている。現在、職員の見守りで入浴する方は午前中、介助の必要な方は午後入浴となっている。可能な限り、本人の生活習慣や希望を尊重した支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) それぞれのリズムで入眠されている。また利用者によっては足浴をしていただくなどして安眠できるよう支援をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの薬を表にしてまとめてすぐに確認できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに役割を持っていただき、日々生きがいを持っていただけるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個別ケアで行きたい所に行けるように支援している。また全体の行事においては家族も一緒に同行され協力してくださっている。	
			(外部評価) 毎日、戸外に出ることができるよう支援している。身体機能等が少しずつ低下しており、ホーム周辺への散歩、買い物、ドライブ、家族の協力を得ての行事への参加等、個々の希望や力に応じた支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 希望される方はご本人が少しだけお金を持たれている。大体の方が、こちらに預けられていて、使いたい時に使うようにしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 数名ではあるが、ご本人が家族に電話をされたり、手紙を書いたりされている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 行事の写真などを貼った壁新聞を作り、グループホームでの思い出をいつでも楽しめるようにしている。また玄関やフロアにその季節の花などを飾って季節感を出すよう心掛けている。	
			(外部評価) 季節の草花が活けてあり、窓からの風景は季節を味わうこともできる。時々の壁新聞や行事のスナップ写真を掲示して楽しんでいる。手すりや家具の配置を工夫し、それぞれが寛げる場所を確保している。ホーム全体に気になる匂いは無く、整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) お部屋の飾りつけなどができる方はご自分で居心地のいい空間作りをされている。またできない方は職員がその人に合うような空間作りに努めている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) なるべく家で使い慣れた家具などを持って来ていただき、ご本人が昔と変わらず生活できるような配慮をしている。	
			(外部評価) トイレと洗面所が各居室に設置されている。利用者ごとに使い慣れた物品（仏壇・神棚・ベット・タンス・机・写真・絵や書・人形等）が持ち込まれ、個性がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) トイレや居室がわかるように目印をつけたり、車椅子でもフロアを自由に動けるように、なるべく物をゴチャゴチャ置かないように心掛けている。	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870102187
法人名	社会福祉法人 松山紅梅会
事業所名	グループホーム 梅本の里
所在地	愛媛県松山市北梅本町1624番地1
自己評価作成日	平成 21年 11月 12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 21年 12月 3日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個別ケアに重点をおき、利用者の希望に沿った介護ができるように心掛けている。また最近では全体のADLが低下してきているため、外出行事など減少しているが、グループホームで飯ごう炊飯をしたりなど、利用者が懐かしいと思っていただけるようなグループホーム内のできる行事に力を入れている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

郊外の山間に建つ総合福祉施設の一画にあるホームである。山々、池や畑、遠くの町並みが見渡せる自然環境の中で、利用者はゆったりと落ち着いた生活を送っている。職員は一人ひとりの個性を大切にしたい暖かい支援に努めている。法人全体として地域に根ざした活動・支援をすすめており、地域との繋がりが構築されている。利用者の機能低下等もあり、ホーム外の活動よりホーム内での生活が中心となっており、職員はホーム内での生活のあり方を模索し、生活の質を上げたいと検討を続けている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム 梅本の里

(ユニット名) 2F

記入者(管理者)  
氏名 山中 敬子

評価完了日 平成21年 11月 12日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 職員全員で意見を出し合い理念を作り、よく見える場所に掲示し、取り組む努力はしているが、具体的共有につながっていない</p> <p>(外部評価) 全職員で意見を出し合って作られたわかりやすい理念は、目に触れやすい場所に掲示して時々共有し、日々の実践につなげている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域サロンに出かけたり、地域の人と消防訓練を行ったり、幼稚園・小中学校とも交流をしている。また、単発的な行事や季節の催し物にも関わりをもち、交流をしている</p> <p>(外部評価) 「地域と共に支えあう」という理念は法人全体の職員に馴染んでおり、地域行事への参加はもちろん、近くの自衛隊の餅つき、子どもたちのお菓子作りや季節の催し物開催等、多岐に渡る交流ができています。また、近所の方が野菜や果物を届けてくれたり、散歩時には挨拶を交わすなど、馴染みの関係ができています。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 事業所として積極的な取り組みは、できていない。来訪の方に介護の悩みなどの相談を受けることがあり、傾聴し対応している</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議では、事業所からの報告とともに参加メ ンバーから質問・意見・要望を受けサービス向上に活 用している	
			(外部評価) 地域の住民や利用者の家族等にも、より多く参加して もらえるよう、行事や家族会と合同で開催するなど、 開催日・時間や運営の工夫を続けている。また、市内 他ホームとの間で、管理者が会議に参加し合うなどし ながら、より有効な会議運営について相互に検討し 合っている。会議での意見は職員で共有し、サービス の向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議の際、実績やケアサービスの取組みを 伝えている	
			(外部評価) 運営推進会議の際にできるだけ現場を見てもらって意 見交換している。必要時には助言や協力を得たり、情 報提供するよう相互に取り組んでいる。また、月1回 は介護相談員の訪問もある。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 研修などで勉強する機会をもち、理解を図っている。 利用者がいつでも外出・散歩ができるよう施錠はして いないが、一人で外出できる方がおられない	
			(外部評価) 職員は、研修・勉強会等で学ぶ機会を持ち、カンファ レンスでも議題に上げており、十分理解している。現 在、家族の希望で安全確保のために夜間ベッド柵を使 用している利用者があるが、家族の承諾書を得たうえ で状態把握や記録を常に行っている。玄関は、夜間以 外施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などで勉強する機会、職員会議で話し合う機会をもち、職員それぞれが心がけている	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などに参加したことはあるが、活用し支援するまでにはいたっていない	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 家族に入所時説明はしているが、十分理解するまでにはいたっていないと思う。解約をする際は経過を追って家族と話し合い、結論を出している	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 意見箱を設置して意見を求めている。運営推進会議で家族等から意見・要望を聞き運営に反映させている。外部者へ表せる機会は設けられていない  (外部評価) 契約時にホーム内及び外部の苦情相談窓口について説明し、家族の来訪時には話しやすい雰囲気づくりに努めている。家族会や運営推進会議でも、意見が出しやすい進行に心がけている。意見や要望は職員間で共有し、運営に反映させている。また、意見箱も設置している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の見 意見や提案を聞く機会を設け、反映させてい る	<p>(自己評価) 施設長との定期的な面談の機会を設けている。職員会 議等を活用し、意見や提案を聞く機会を設け、反映さ せている</p> <p>(外部評価) 法人の施設長との年1回以上の面談の際に、意見や希 望について話している。月1回、定期的に職員会を開 催して活発な意見交換を行い、出された意見等を運営 に反映させている。管理者は会議や面談での提案につ いて具体的に対応している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実 績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時 間、やりがいなど、各自が向上心を持って 働けるよう職場環境・条件の整備に努めて いる	<p>(自己評価) 代表者は、管理者や職員の業務や悩みを把握してい る。また、向上心を持って働けるように年2回人事考課 を行っている</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケア の実際と力量を把握し、法人内外の研修を 受ける機会の確保や、働きながらトレーニ ングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 事業所内外の勉強会・研修には、なるべく多くの職員 が受講できるようにしている。また、それらの報告書 は毎月の職員会議で発表してもらっている。いつでも 報告書の閲覧ができるようにしている</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流す る機会をつくり、ネットワークづくりや勉 強会、相互訪問等の活動を通じて、サービ スの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) GH連絡協議会・地域包括支援センターの勉強会・相互 訪問などの活動を通じてサービスの質を向上させてい く取組みをしている</p>	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が 困っていること、不安なこと、要望等に耳 を傾けながら、本人の安心を確保するた めの関係づくりに努めている	<p>(自己評価) 事前面談で本人の心身状態や本人の思いの把握に努め ている。また、利用者によっては、通所・ショートス テイを利用してもらい関係づくりに努めている</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) これまでの家族の苦労や今までのサービスの利用状況・求めているもの等について事前に話し合いをしている	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 相談時、利用者 家族 ケアマネージャーと連携を取り、必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 利用者の持てる力を発揮していただき、支援される立場・支援する立場でなく、ともに協働できる関係を築いている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 行事連絡時などに、利用者の様子をきめ細かく伝えている。GH便りを送ったり、来訪時、潤滑油になるように心掛けている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出できる方が少ないが、外出できる方は馴染みの人と交流できるサロン 思い出の場所に行けるよう個別処遇を利用し、支援している  (外部評価) 職員は日々の生活の中で利用者個々の情報を把握し、個別の対応を心がけている。地域行事に参加したり、馴染みの友人と会ったり、行きつけの美容院や墓参り、希望の買い物や外食に行くなど、個別支援に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係がうまくいくように情報を共有し、個別に話を聞いたり、相談にのり調整役になり、利用者同士が関わり合い、支え合えるように支援している	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用が終了しても、これまでの情報を提供し、相談や支援に心掛けている	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々の会話を大切にし、利用者の希望や意向・気持ちの把握に努めている。意思疎通が困難な方には、家族などから情報を得るようにしている  (外部評価) 利用者に関わったり、家族から情報を得るなどして思いや意向を把握し、具体的な支援に繋げている。身体機能等の低下から次第に外出が難しくなっており、ホーム内での生活を充実させるよう工夫している。家事、畑の水やり等、個々に役割をもってもらうように努めている。また、戦争の話から飯ごう炊飯や手打ちうどん作り等につながるなど、生活の中での楽しみのレパートリーを増やしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所時にバックグラウンドを把握している。また、家族の来訪時お聞きしたり、本人の会話のなかより把握に努めている	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 介護記録の記入により現状を総合的に把握し、様々な援助に努めている	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者の生活の様子や身体の状態を観察し、精神面も大切にしながら、必要に応じて医療関係者とも相談して介護計画を作成している。また、家族には来訪時、思いや意見を聞くように努めている  (外部評価) 職員は担当制で、利用者や家族の希望等も確認したうえで、把握した情報等を介護計画作成に活かしている。計画はケアカンファレンスで意見を出し合い、3か月ごとに見直している。また、変化のある時は必要に応じて見直している。ホームでの生活の様子は家族にも伝え、同じ意識を持ってもらうよう働きかけている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 個別記録に日々の様子 本人の言葉 エピソード 食事・水分量 排泄等身体的状況を記録し、勤務前に確認を義務付け介護計画の見直し、評価に活かしている	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の状況に応じて通院等必要な支援をしている。また、併設施設の機能を活用し、身体状態に応じて機械浴の利用など必要な時、必要なサービスを提供している	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 訪問理美容サービスを利用したり、地域サロンに参加をし楽しんでいただくよう支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人・家族が希望する主治医から2週間に1度往診を受 けている。必要に応じて受診の付き添いや家族とも同 行して、普段の様子や変化を伝えるようにしている	
			(外部評価) 月2回、協力医療機関からの往診があり、法人内の看 護師が対応して、連携がスムーズに行えるよう配慮し ている。利用者の希望するかかりつけ医への受診を継 続することも可能であり、その際は家族の協力を得て いる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状 態変化に応じた支援を行えるようにしている。看護職 員がいない時間は介護記録の記録を基に確実な連携を 行っている	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には、本人の支援方法に関する情報を病院関係 者に提供している。また、家族とも情報交換しなが ら、すみやかな退院に向けての病院関係者とも関係づ くりを行っている	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 本人・家族の意思を踏まえ、医師 職員と連携をと り、随意意志を確認しながら支援に取り組んでいる	
			(外部評価) 開設から現在までに5名の看取りを経験したが、ここ 3年は経験していないため、看取りを経験した職員が 少なくなっており、課題となっている。具体的な支援 内容・介護の方法・医療機関との連携体制等につい てのマニュアルを作成しているが、実践に備えて再確認 が必要である。	現在いる職員の多くは看取りを経験していないため、 マニュアルの見直しと、具体的な研修の継続を期待し たい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 定期的な訓練は、行っていない。職員会議で勉強会を実施している。夜勤時の緊急対応マニュアルを整備している	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消火器の設備点検を定期的に行っている。非常用食料を準備している。消防署の協力を得て避難訓練 消火器の使い方などの訓練を行っている  (外部評価) 法人全体として、消防署や地域住民の参加協力を得ての防災訓練を年2回実施している。定期的な消防設備の点検や非常用食料の備蓄等も行っている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 利用者の誇りやプライバシーを損ねない声掛けや対応に十分配慮している。個人情報の取り扱いも家族と相談しながら、秘密保持の徹底に努めている  (外部評価) 職員は、利用者一人ひとりを尊重した言動に十分配慮している。排泄や入浴の支援、居室への出入りの対応等は特に意識して気をつけている。個人情報の取り扱いにも配慮し、必要時には家族と相談している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 個別処遇などで思いや希望を表せるように援助している。また、個々のわかる力に合わせた説明を行い、答えやすく 選びやすいように支援している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 本人の希望に沿い、また、体調に配慮しながら一人ひとりのペースを大切にし、入浴 散歩 レクリエーションなどの支援をしている	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人の機能に合わせて、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。月に1度 訪問理美容があるが、本人が望む理美容院の利用も支援している	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 献立に利用者の好物 誕生日にはリクエストメニューを取り入れている。また、準備 片付けなども利用者とともにいき職員も利用者と同じテーブルで食事をし楽しい雰囲気づくりに努めている	
			(外部評価) 利用者の好みを考慮しながら職員が献立をたて、栄養士が確認している。できる範囲で準備や片付け等の役割を持ってもらっている。利用者と職員が同じテーブルで一緒に食事を楽しんでいる。機能や状態に応じて、細かく切ったり、柔らかくしたり、トロミを付けたり、握り飯にするなど、個々の状態に合った支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事 水分量も個々に合わせて確認している。また、一人ひとりの状態により、嗜好品や食べやすい物などを摂取していただいている。毎日の献立は、1週間単位で栄養士のアドバイスを受けている	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分でできる方は声掛け 見守り 一部介助をし、できない方は利用者に応じて歯磨きティッシュなどを利用して口腔ケアをしている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄チェック表を使用し、尿意のない利用者も時間を見計らって誘導し、トイレで排泄できるよう支援している	
			(外部評価) できるだけオムツを使用しないでトイレで排泄できるよう、自立にむけた支援に努めている。個々の排泄チェック表を活用し、排泄パターンを把握している。現在、オムツを使用している利用者はいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排泄表を記録し、便秘の方には牛乳やヨーグルトなどで十分な水分補給と繊維質の多い食材を提供している	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 本人のこれまでの生活習慣や希望に合わせて入浴できるよう支援しているが、意思表示のできない方は、曜日などを決めて入浴の支援をしている	
			(外部評価) 利用者同士で順番を決めて声をかけ合っており、スムーズにいかない時だけ職員が関わっている。現在、職員の見守りで入浴する方は午前中、介助の必要な方は午後入浴となっている。可能な限り、本人の生活習慣や希望を尊重した支援に心がけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人ひとりの状態に合わせて昼寝をしたり、気持ちよく眠れるよう日中の活動に配慮している	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者の薬の処方 効能 副作用の説明をファイルに保管し全職員がわかるようにしている。服薬時は本人に手渡し又は介助にてきちんと服薬できているかを確認している	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の手伝い 洗濯たたみなどを手伝っていただき、活躍できる場面をつくり、感謝の言葉を伝えるようにしている。また、カラオケ 民謡 生け花などを楽しんでいただき、気分転換の支援をしている	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買物 ドライブ 散歩 個別処遇などを利用して戸外に出かけられるよう支援している	
			(外部評価) 毎日、戸外に出ることができるよう支援している。身体機能等が少しずつ低下しており、ホーム周辺への散歩、買い物、ドライブ、家族の協力を得ての行事への参加等、個々の希望や力に応じた支援に努めている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 職員は利用者がお金を持つことの大切さを理解しているが、現在、所持を希望する方がいない。必要に応じて使えるように、支援している	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 電話をかけたがり、手紙を出せる方が少ないが、利用者の希望に応じて、日常的に電話で話をさせていただいている	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 月ごとの壁新聞を貼ったり、玄関 居室 フロアに季節の花を生けるなどして季節感をだしている。また、不快な音や光がないように配慮している	
			(外部評価) 季節の草花が活けてあり、窓からの風景は季節を味わうこともできる。時々の壁新聞や行事のスナップ写真を掲示して楽しんでいる。手すりや家具の配置を工夫し、それぞれが寛げる場所を確保している。ホーム全体に気になる匂いは無く、整理整頓されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 廊下に藤椅子を置いたり、くつろぎコーナーを設けて一人になれたり、気の合った利用者同士の交流の場として活用している	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 入所前に使っていたタンス 人形 アルバム等を持ち込んでいただき、自分の部屋らしく居心地よく過ごせるように工夫している	
			(外部評価) トイレと洗面所が各居室に設置されている。利用者ごとに使い慣れた物品（仏壇・神棚・ベット・タンス・机・写真・絵や書・人形等）が持ち込まれ、個性がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 一人ひとりのわかる力に合わせて、居室やトイレがわかるように目印をつけたり、表示の工夫をして、本人の不安や混乱材料を取り除きできる力を生かすよう支援している	